

いっしょに考えよう 「地域」のちから

—つながるって、やっぱりいいよね—

日 程： 2014年11月22日（土）13時～17時30分

場 所： 北海道大学人文社会科学総合教育研究棟（W201・W 202・W309）

主 催： 北海道社会教育フォーラム 2014 実行委員会

後 援： 札幌市・札幌市教育委員会・北海道教育委員会

誰もが安全に・安心して暮らし続けられる地域をつくるには、人と人、人や自然とのつながりが必要です。そのようなつながりを生み出す力を育むためには、年齢や性別、国籍などを問わず、学びあい、育ちあう実践が大事なのではないのでしょうか。そしてそのような実践を支える社会教育の仕事がますます重要になってくるはずです。

2008年に開催された「社会教育研究全国集会 in 北海道」の成果を引き継ぎ、北海道の地域づくりと私たちのみらいを開く学びを探究するために、このフォーラムを開催します。ともに考え、学び、語り合いましょう。そして私たちが求める社会教育のありかたを確かなものにしていきましょう。

社会教育やまちづくり、福祉や子育て支援、ボランティア活動に関わっている方、行政関係者、研究者、学生など、どなたでも参加いただけます。

【集会参加費】 1,000円（学生は500円）

【全体会 13:00 ～ 14:30】
「考えよう、『地域』のちから
—社会教育のみらい—」

話題提供者 : 藤野真一郎さん [恵庭市]
(予定) : 櫻井朋子さん [訓子府町]
: 下村朋史さん [ワーカーズコープ]

【分科会 14:45 ～ 17:30】

■育ちあう仕組みをつくる

「支援する—される」という関係ではなく、学びあい育ち合う仕組みをつくるにはどうすればよいのか。当別町の「ゆうゆう」と札幌市の「ねっこぼっこのいえ」の事例に基づき検討します。

■つながる力を高めるには

地域の「つながる力」を高めるための働きかけをどうすればよいのか。弟子屈町の「みちくさ」は、高齢者から子どもまでのつながりをつくるたまり場であり、長沼町の「ほっこり」は商店街の空き店舗を活用した多世代交流拠点です。これらの実践に大きな役割を果たしている社会教育委員の可能性を探ります。

■暮らし続けられる地域

地域の消滅さえ語られる下で、暮らし続けられる地域づくりのためには世代の継承・交流が不可欠です。地域で排除されがちな人々を地域で支え、子どもの育ちを保障すること。そして持続可能な、環境・エネルギー・農業等について、「ワーカーズコープ 恵庭地域福祉事業所」、「北海道新エネルギー普及促進協会」、「札幌自由が丘学園」の取り組みから学び、これからの地域づくりに関わる社会教育の課題を考えます。

【懇親会 18:00 ～ 20:00】

【お問合せ】 北海道社会教育フォーラム 2014 実行委員会 事務局

【お申込み】 E-mail : ceforum20141122@gmail.com

携 帯 : 090-4502-2397 (沢村) FAX : 011-706-3090